

## 舞踊学に文化人類学的かつ

### 情動論的な研究方法を

(An Anthropological and Affective Method  
for Dance Studies)

ケイトリン・コーカー (Caitlin Coker)

特定講師

京都大学大学院 人間・環境学研究科

本発表の目的は発表者の考える文化人類学的な研究方法を明らかにして提案することです。はじめに舞踊人類学を紹介して、その研究方法の傾向を批判します。従来の舞踊人類学の傾向に対しては、文化人類学における身体化論と情動論を参考にしつつ批判して、舞踊への研究方法を提案します。

はじめに、舞踊人類学の創立期から近年の展開までの先行研究の方法論を紹介します。創立期に研究者兼舞踊家が人類学において舞踊を中心的な研究対象とする欠如を批判して、舞踊の社会的機能とその身体的形態を分析する重要性を提唱しました。近年までは、舞踊の文化的意味、さらに舞踊家のエスニシティやジェンダー、セクシュアリティなどのアイデンティティ形成も注目されるようになりました。

発表者はこれらの視座の問題点 2 点を以下のように指摘します。

1 点目は、上演に焦点を当てる傾向です。研究方法は上演のみでは観客の視点に留まって、舞踊家自身の実践を理解することにはなりません。そのため、舞踊の制作過程への参与観察、すなわち共に踊っている現地の人々の身体と研究者自身の身体を通して調査をすることが必要と考えます。

2 点目は、身体を安定した媒介と見なしていることです。舞踊というものは、先行研究に描かれているような、舞踊家個人が意図した通りに作られた身体形態でもなく、その結果としての社会的な機能を果たすまたは文化的な意味を表象するものでもないと考えます。そのため、舞踊および踊っている体は何なのかを問い直すことが必要になります。

踊っている体は何なのかという問いに対して、発表者は文化人類学における身体化論と情動論を参考にしつつ批判して研究方法を提案します。

身体化論というのは、モーリス・メルロー＝ポンティの現象学に依拠して既存の身体論の表象論を補う理論であり、人間の身体的実践はいかに現地の文化によって形成されているのかを検討する方法論です。発表者は身体化論を舞踊における corporeality (肉体性) を考える鍵概念としつつ批判します。その批判は、身体化論の焦点は身体から文化的な言説にずれてしまう

ということです。

身体化論に対して、情動論は文化的な言説として作り上げられる前の身体感覚すなわちアフェクト (情動) を捉えようとします。発表者はアフェクトを次のように定義します。アフェクトは気持ちや感覚、目に見えないが放たれる印象なども含め、体と体との間に伝染するように流動する物、またはある種の影響力であると考えます。

情動論は舞踊における衝動や即興性、あるいは偶発性を説明するのに効果的ですが、基本的に矛盾しています。その矛盾は、情動論は文化以前の、あるいは文化と関係のない身体が存在しないことを容認しつつ文化以前の身体的経験を考察しようとするところにあります。また、文化以前の身体ということ、文化によって作られている精神(mind)と自然である肉体(body)という心身二元論に陥ってしまいます。これに対し、近年の情動論は精神の領域とされてきた意味づけ(meaning-making)または想像力がいかにアフェクトの流動に関わっているのかを論じることによって、より総合的な体に肉薄しようとしています。

結局、身体化論と情動論は踊っている体は何なのかを問うのに役立ちますが、従来の舞踊人類学と同様に身体的な実践を社会システムや文化的な言説に還元してしまう傾向があります。

発表者はここから舞踊は何なのかを問うことで視座を展開します。舞踊あるいは身体表現の特徴は社会制度の外あるいは社会規範から逸脱した位置から非日常の場で新しい世界観を創造できることだと考えます。そのため、社会の固定概念並びに文化によって定められた生き方によって踊っている体の動きが決まってくるという決定論的な視座のみになると、舞踊を対象にする必要性がなくなると考えます。

発表者が提案したいのは、踊っている体は社会的な固定概念を揺さぶり、肉体と肉体との関係性への先入観並びに全体的な世界観を攪乱して新しい在り方とリアリティーを体現していく可能性をもっていることにも焦点を当てることです。つまり、社会や文化がいかに舞踊の形態を作るのかという従来の視座に、踊っている体がいかに新たな世界観を創造しうるのかを考えるという視座を提案します。

上記の方法論をもって研究することは、身体化論と情動論を参考に文化人類学の調査方法を通して舞踊とその体への理解を深めると同時に、舞踊学を通して身体論を展開して社会科学に貢献することを目標としています。